

# たのしい サイエンス通信

2022年度

7

猛暑ですね。こんな時は夏の風物詩「花火」で、暑さを吹き飛ばしたいところ  
です。ところで、花火を題材にこんな短歌があります。

はなび花火 そこに光を見る人と闇を見る人いて 並びおり  
俵 万智

作中の並んで花火を見ている人・・・恋人どうでしょう？それとも家族？  
友人？或いは仕事仲間かもしれません。一緒に打ち上げ花火を見ているんですね。  
一見、仲良さげです。でも、それぞれの心の向きは別々・・・夏の夜空の美しい  
花火を詠みながら、この短歌は「光と闇」の解釈によっては、意味深でゾクリと  
したものがありますね。作品には冷徹な凄みがあります。

まあ、文系の歌人は華やかに夜空を彩る花火を見て、こんな風にヒトの心の光  
と闇に想いを馳せ、芸術へと昇華するわけです。それでは花火を見て理系の脳裏  
を去来するものは??

さしずめ今回の4コマ漫画のごとく「炎色反応」といったところでしょうか？  
花火は炎色反応という化学変化をものづくりに活かしています。打ち上げ花火の  
大玉の構造は、上空で花火玉を割るための火薬と、夜空に美しい色で模様を描く  
ための丸い粒の火薬の2種類が入っています。この丸い粒に含まれるアルカリ金  
属やアルカリ土類金属、銅などの塩が炎の中で各元素特有の色を示します。その  
色彩は、銅は青緑色、硝酸ストロンチウムは赤色、硝酸バリウムは緑色・・・とい  
うように実にさまざまです。この炎色反応のおかげでいろんな色が夜空を彩るの  
です。また、酸化剤には塩素酸カリウム、可燃物には硫黄、木炭などが使われて  
います。まさにサイエンスですね。

